グラスフェッドのすすめ

(有) シェパード　獣医師　松本大策

5：終わりに代えて

グラスフェッドに関して興味をお持ちになった方は、ぜひお問い合わせいただけば、この国でグラスフェッドを一生懸命やっている農場をご紹介します。出来れば、本や文字の知識ではなく、じっさいにグラスフェッドを楽しんでいる方々の知恵を学んでいただきたいからです。

この文章も終わりに近づいてきたので、最後にもう一度、老婆心から言わせていただくなら、グラスフェッドを始めるなら、売り方についても最初で考えておきましょう。商売の基本は「売れるものを作る」です。これからの多様性の時代、グラスフェッドはマーケティングさえしっかりとすれば、「売れる」商品だと確信しています。

このあたりも、実際にグラスフェッドによる牛肉生産をなさっている方のやり方、知恵、人脈、などを学んでいくのが早道だと思います。先輩から見ると、必死で取り組もうとしている方はなんとなく分かるものです。そういう必死な取り組みをしようとしている人が教えを受けに来たときに、ちゃんとした先輩なら必ず助けてくれるはずです。もしかしたら、あなたが仲間になることで、さらに可能性が広がるかも知れません。誠実に礼儀を尽くして学ばせてもらいましょう！

さて、これまでグラスフェッドについて、いろいろなお話しをしてきましたし、産業として成り立たせるために僕なりに考えたことなどもお話しさせていただきました。しかし、ここでまったく別の面からのお話しもしておきたいと思います。

グラスフェッドによる牛肉生産を考えながら、技術的なこととはまったく別に「やはり農業は哲学だ」という意識が強くなりました。経済性だけを追った牛肉生産は、何かしら年々息苦しくつらい牛飼いを強いているような感じがするのです。

みなさんはしあわせですか？せっかくしあわせになるために生まれてきたのに、しあわせになるチャンスはいくらでもあるのに、「効率的にお金を儲ける」という事を目標にしてしまうことで、かえって不幸になっているような気がするのです。人生の最終目標は「しあわせになること」だと僕は考えています。最近読んだ本に書いてあったのですが、アメリカのフォーブス誌で高所得者リストに挙げられた人の、なんと40%が、平均的アメリカ人より幸福度が低い、つまり「お金持ちになってもしあわせでない」という調査結果が出ているそうです。

グラスフェッドへの取り組みは、このあたりの考え方を切り換えるチャンスにもなるの

ではないか？と思います。もちろん、今の肥育で成功し、しあわせな方もいらっしゃいますし、そういうやり方を否定するものでもありません。ただ、牛づくりを「農業」として考え直したときに、別のやり方があってもいいんじゃないか？くらいの柔軟性を持つことが出来れば、なんだか今の日本の畜産を覆う息苦しさも、少しは改善されるのではないかと考えるようになりました。昔から牛づくりは土づくりといいますが、グラスフェッドでは端的に「土づくり」に経営が依存します。ですから、これからの日本を支える産業の1つとしての環境型循環農業の一端として牛肉生産から環境問題を考え、また消費者を教育していくという重要な役割を担う事だってできると思います。そう考えると収入面だって、生産された牛肉だけに限って考えなくてもよいと思います。環境保全費などを要求していく活動も立派な社会貢献だと思いますし、消費者セミナーなどを開くことが出来るくらいまで、この産業を必死で続ければ、そういった部分からの収入だって期待出来ます。

収入が無くては生きていくことが出来ませんが、僕は人生の目標を「収入を上げる」事から「生き甲斐のある仕事」に切り換えてみると、もっとしあわせな牛飼いが出来る可能性もあるんじゃないか？と言いたいのです。先ほどお話しした「副収入のお話し」も、そのくらい柔軟に考えることが出来れば、もっと自由に生きられるよ、というアドバイスのつもりです。決してそういう副収入を当てにしてグラスフェッドに取り組めということではありません。逆に、グラスフェッドでも何でも、必死で取り組んでいると、そういう新しい道もどんどん開けてくるよ、ということです。

なんだか、技術屋としての獣医師の文章ではないような感じですが、やはりみなさんにしあわせな牛飼いをしていただきたいという想いが強いので、最後は空回り気味になってしまいました。稚拙な文章に最後までお付き合いいただき本当にありがとうございました。一緒に取り組めることや、僕がお手伝い出来る部分があれば、HPを通じてでも、お聞かせいただければとてもうれしいです。一緒にしあわせな牛飼いをしようよ。